

先端ビジネス特集によせて



ネットビジネスソリューションカンパニー
プレジデント

竹内 敏尚

Toshinao Takeuchi

世界的な景気の停滞感、ドットコムバブルの崩壊などにより、「ネットビジネス」、「ネットベンチャー」といった言葉も一時の輝きを失ったかのように見えます。

しかし、その一方で、ADSLやIPVPNなどが普及し、個人向け、企業向けを問わず低価格なブロードバンドネットワークの利用が急速に拡大しています。また、携帯電話の普及に伴いさまざまな新しいビジネスが提案されるなど、ネットワークを利用した事業の重要性は確実に高まっていると考えられます。

沖電気ネットビジネスソリューションカンパニーはネットワーク上でのさまざまな事業を支えるソリューション提供の観点から、「ネット決済」、「セキュアWebトランザクション」の分野に注力しています。

ネット決済

どのような形であれ、ビジネスにおいてはお金のやりとり＝「決済」処理が伴います。ネットワーク上でのビジネスの成功には安全かつ便利で低コストの決済手段が必要です。

沖電気は国際標準仕様のSETTM (Secure Electronic Transaction) に準拠し日本インターネット決済推進協議会 (JIPPA) のインターオペラビリティ・テストに合格し、「JIPPA Interoperability Test認定証」を付与されたインターデビット決済対応のサービスやシステムを商品化し、金融機関や仮想店舗事業者などの皆様にネット決済ソリューションとして提供させていただいています。

また、2003年からは、より導入しやすく安全性の高い、インターネット・バンキングサービス連動の「マルチバンク決済ソリューション」やクレジット決済での安全性を高めた「3Dセキュア決済ソリューション」の提供を開始し、インターネットや携帯電話での決済についてより高い利便性と安全性の追求を進めております。

セキュアWebトランザクション

トランザクション処理はビジネスを行う上での基本かつ重要な処理と位置付けられます。インターネット等のネットワーク上でのビジネス展開には、Webに対応し、セキュアで信頼性の高いトランザクション処理を実現するネットワークソリューションが必要です。

一方、多くの企業は、これまでホストコンピュータで行われていた基幹業務をインターネット技術をベースとしたオープンシステムに移行し、TCO削減を進めております。

オープンプラットフォーム、特にJavaを利用したJ2EE標準に基づいたトランザクション処理システムの構築において、沖電気は多くの実績を持っています。ここで得られたスキルをもとに、Webでのトランザクション処理についても多くのソリューションを提供しております。

沖電気は2000年に、ペイメントファースト社を設立し、いち早くインターネット決済に関するサービス事業、システム開発等の事業を開始いたしました。今後も、安全で利便性の高い決済ソリューションの提供を追求し、研究、商品化を行ってまいります。

また、2001年1月に「ネットビジネスソリューションカンパニー」をベンチャーカンパニーとして設立いたしました。当カンパニーは「ネット決済」事業と「セキュアWebトランザクション」事業を中心にソリューションの提供を行っています。

本特集において、ネットビジネスに対する沖電気の取組みをご理解いただければ幸いです。◆◆



エンタープライズソリューションカンパニー
プレジデント

坂巻 裕三
Yuzo Sakamaki

最近20年間の企業情報システムの動き

企業情報システムの動向を検証すると1980年代には、いわゆる日本型経営の全員参加型TQC（Total Quality Control）運動、5S（整理、整頓、清掃、しつけ、清潔）運動、ZD（Zero Defect）運動など、規格大量生産指向の強い経営システムが世界をリードし、“ジャパン アズ ナンバーワン” と呼称されました。1990年代に入りUNIXが、開発以来もっぱら科学技術計算用に利用されていたものがウォール街の金融業界でも使用されるに到り一挙にUNIX上に経営業務用のアプリケーションソフトウェアが充実しました。

従来ホストコンピュータが担っていた経営基幹業務システムが簡便なUNIXベースのクライアント／サーバシステムに置き換えられてその流れは“ダウンサイジング”と呼ばれる世界的潮流となりました。この潮流を“IT革命” ととらえて産業再生をかけて欧米企業は競ってパッケージソフトを基幹業務に採用し同時に日本企業に対抗するための競争力向上を目指し最先端IT技術、ネットワーク技術を採用し新しいビジネスのやり方（BPR Business Process Reengineering）に素早く移行して行きました。この動きは“パラダイムシフト”と呼ばれて特に米国産業界において1990年代の目覚ましい発展が計られ、従来の規格大量生産から広く個別のニーズに素早く廉価に対応する産業システムを実現しました。

“つなぐ” サービスの提供

沖電気の企業情報システム事業ではこのような流れに沿って1990年代前半よりUNIXベースのクライアント／サーバシステムをOEM採用しました。主に製造業を対象とするエンタープライズ・ソリューション・カンパニー（ESC）が設立され、パッケージソフトを最適に組み合わせることにより基幹業務の構築サービスを提供しております。

最新のIT技術を駆使して企業競争力向上を実現する基幹業務導入には将来を見越して変化に強い業務フロー構築が

まず必要になりそのためのいわゆる上流コンサルテーションを提供します。コンサルテーション・プロセスを通じて顧客の将来に亘り通用する最適システムをデザインしその導入（インプリメンテーション）を行います。年々変化する企業環境に業務／システムを最適化させるシステム定着化サービスも重要なプロセスとなっています。国際間に広がる分業、協業の盛んになった今日ではその業務を効率良く“つなぐ”（接、繋、継）ことが競争力の源泉となります。

この効率向上のためESCではMAI（Manufacturing Application Integration）コンセプトに基づきシステムの接続、データベースの繋ぎ、システムの継承を実現する各種“つなぐ” サービスを提供しています。

先端ビジネス特集

今回の特集では、e社会の実現に貢献するための新たな事業領域において社内ベンチャーカンパニーが中心に事業を展開する将来成長が見込めるビジネスを紹介します。

ESCでは、システム構築の上流コンサルティングによる情報システム改革、現場改革、業務意識改革の三位一体の改革について提案します。また、分業化に対応するシングルロジスティックデータベースの導入成功事例をユーザ事例で説明します。製造業の内でも特に国際協業が一般化している航空機製造界の市場構造に触れ業界標準（インダストリアルスタンダード）の動きとESCの関与と業界の特性でもある情報セキュリティの提供に関して紹介します。

